

「きれいな水は
きれいな井戸から」



© UNICEF
HQ01-0150/Giacomo Pirozzi

ユニセフ夏の教室

夏休みも終わりに近づいた8月28日、学習会を開催(参加者約50名)。まず、ネパールで使われている水ガメに水を入れ、実際に運んでみました。その後の「井戸を作る」というワークショップでは、村人や村長、ユニセフ職員などの役割を演じ、水がない不便な生活を改善するために、どうすればいいのかということみんなで話し合いました。その他にも、『水を求めて』というビデオをみたり、最後に「経口補水塩」をつくり、実際にみんなで飲んでみました。

日本の毎日の生活では、蛇口をひねればすぐ手に入る「水」ですが、世界のたくさんの国では、水汲みが重労働となり、子どもたちの成長や教育の機会を奪っているという現実がよくわかりました。

「水とわたし」をテーマに開催



* ご協力ください *

ボランティア募集 設立後2度目の冬を迎え、活動の幅も広がっています。イベント等でのカード販売やスタッフとして、また学習を深め学校等で講師として活動したいと思っておられる方、私たちの仲間に入りませんか。まずはご連絡ください。

ユニセフ募金 ~ご家庭で学校で職場で~
いただきました募金は、日本ユニセフ協会からユニセフ本部、そしてユニセフ現地事務所を通じて世界の子どもたちの支援活動に使われます。

郵便振替でお願いします

口座番号:00190-5-31000

加入者名:(財)日本ユニセフ協会

通信欄に「K1-280兵庫県支部」とご記入ください。

会員って ユニセフ協力活動を行なう日本ユニセフ協会を、会費によって支援します。

一般会員...個人ならどなたでも 1口 5,000円

学生会員...18歳以上の学生 1口 2,000円

団体会員...団体、法人、企業 1口 100,000円

*申込み方法についてはお問い合わせください。

ユニセフカタログ『秋・冬号』到着

手にとってみるだけでも楽しくなるユニセフの商品クリスマスプレゼントにぴったりのABC動物列車やカード、年賀状など素敵なグッズが揃いました。ぜひ一度ご覧下さい。カタログをご希望の方はご連絡ください。



テディ・ベアー
マイクくん
(ユニセフ初代くま大使)



でてくるボックス

源氏物語手鑑「玉鬘」(部分)



カード・封筒各10枚



ピラー・キャンドル
3種類のデザイン
各1個入り

毎月7日は生活文化センター1階のロビーでも販売しています

あとがき

空の色や風の匂いにも秋を感じるこのごろ。日本の平和と四季のかけがえなさを思いつつ、世界には秋の訪れが生命の危機につながる国々の方が多いのだということも心をよぎる。「世界のともだちと心をつなごう」支部のつどいの統一テーマだが、無力さを知りつつ、視線を向け、心で触れ、何か行動してみることからすべてが始まると信じていたい。(K)

Wish Vol.6号(2003年秋)
ユニセフ兵庫ニュース

2003年(平成15年)10月発行(季刊)
発行:(財)日本ユニセフ協会 兵庫県支部
〒658-0081 神戸市東灘区田中町5-3-18
コープこうべ生活文化センター4F
TEL 078-435-1605 FAX 078-451-9830
(平日の10時~16時)



本紙は再生紙を使用しています。

初めての研修 in北海道

ホフテア活動を始めて1年が経ったこの夏、私は8月4日、5日に、北海道で行なわれた「2003日本ユニセフ協会地域組織学習講師研修会」に参加しました。



ユニセフ本部 九木田さんと懇談会にて

2日間という短い時間でしたが、中身の濃い内容が用意されていて、本当に勉強になりました。中でもユニセフ本部事業資金局上席担当の久木田純さんのお話は、本当にうなずかされる事がとてもたくさんありました。彼の話の中にハングラディッシュでの事が出てきました。ヒマラヤ山脈から土砂が崩れてきた土地、それが今のハングラディッシュの土地となっています。そのハングラディッシュで井戸掘りを進めていたところ、一つの大きな問題にぶつかったそうです。それは地中から約100mのところから砒素が混入して危険な水であったという事だったのです。ヒマラヤ山脈の土砂に砒素が混入しているなんて誰が知っていたのでしょうか。井戸一つ掘るにしてもその国の土地の状態、どのようにしてその土地ができたのか、どれくらい前にできたのか等、色んな事を調べてそこから初めて井戸掘りがスタートするのだと思い、今まで私が描いていた井戸掘りの

作業と大きく違いました。「一つのことを成し遂げるには、多くの時間と人手が必要なのだなあ」と深く思い、また大変な仕事ですがきっと成し遂げたその時は、充実感と人々の笑顔があふれて本当にやりがいのある仕事だと思いました。

北海道の研修を終えた今、ユニセフの職員になりたいという強い希望が前にも増してふつふつと自分の中にあふれています。私はまだ19歳で何をするのに他の補助が必要ですが、一人でも多くの子どもが笑顔あふれる人生をおくれる事を目標にし、これからも日本ユニセフ協会兵庫支部で頑張っていこうと思います。（真淵早百合）

教職員対象セミナー in大阪支部

《総合学習に向けて》をテーマに、教職員のための連続セミナーが、8月19日、20日、21日の3日間、ユニセフ大阪支部で開催されました。

1日目：《総合的な時間》の中で、国際理解教育について、ユニセフの資料を使ってクイズやゲームなどで学び、識字については、文字を使わずに「意味を伝えるポスター」の作製や、自主教材の作成等で取り組んだ。苦労しながらの体験学習は、子どもたちに興味と意欲を起させるには成果があったようだ。

2日目：《スタディツアーの報告》モンゴル、ラオス、ネパールなど、支援を必要としている地域の現状報告。京都にある中学の太田垣先生は、「扉を開けてみたい」との興味を与えられるように、子どもたちが意欲を持てるような話ができればと活動を続けられている。

3日目：『ユニセフ』をテーマに、世界の文化・言葉・貧困などのさまざまな問題に出会い、途上国のことを知り、国際協力への理解を学ぼう。

「“ 厳しい状況の中で頑張っている子ども ”の存在をみて、

「イラク報告会」に参加して 石本愼子

7月30日、戦禍のイラク南部をアグネス・チャン氏に同行し訪問された、日本ユニセフ協会森田広報室長のお話しをお聞きした。廃校となった大阪・堂島小学校の校舎の一室が大阪支部事務所、報告会は4階の研修室で行なわれた。

イラクの様子を映像でみながら、劣化ウラン弾に破壊された建物や壊された戦車で遊ぶ子どもたちの様

子等が生々しく報告された。バスラ市内では放置された戦車や不発弾が散乱し、住民にとっての命綱である水が不足、水道管が破られ水が盗まれる。水不足でイライラしている住民のための給水車が100台、300万円。

復興のためには200億円必要だと聞かされ、気の遠くなるような思いがした。しかし現在ではイラク緊急

募金で120億円が送られ、その内日本からは8億300万円、兵庫支部からの募金も含まれていると思うと少し心が明るくなった。

ひとりひとりの力は小さいが、みんなに呼びかけ地道に活動を続けていけば、いつかは達せられる。イラクの子どもたちのために、明日も少しだけ努力をしてみたいとそんな思いがした報告会だった。

他の国の出来事という理解だけで終わるのではなく、私たちの暮らしと、開発途上国の暮らしが相互関係にあることを理解すること。それには、疑似体験や役割劇、写真などを使って、貧困・難民・児童労働・子どもの買春、ストリートチルドレンの現実を知り、多様な文化への興味と関心を持ち、風土、食べ物、衣装、まつり等を通して、多様な価値観があることを理解しよう」と子どもの権利ファンリテーター・浜田進士さんからお話しがありました。

3日間のセミナーに参加でき、わたし自身さまざまなことが見えてくることを実感しました。（富依昭代）

03年度生協ユニセフリーダー研修・交流会に参加して

8月22日～23日 in京都

両日とも、夏らしいとても暑い日でしたが、遠く富山県や鹿児島からも参加された方々と共に、初日は「東ティモールのユニセフ現地報告」を、2日目には「ユニセフ中期戦略計画」について聞く機会を得ました。

ユニセフ東ティモール代表の浦元義照さんによる現地報告で、状況に即応したユニセフの取り組みについて興味深く聞きました。東ティモールでは、独立後も子どもたちを取り巻く数多くの問題「保健衛生や、水、教育といった」のほかに、いまだ「国の復興や市民社会の育成」といった大きな問題を抱えています。ユニセフは、独立以前から続く支援のなかで民主国家の構築にも大きく貢献しようとしています。浦元さん自身、児童法づくりに関わりつつ憲法にも提言していられるそうで、子どもを支援することで、人をつくり、社会をつくり、平和をつくっていくというユニセフのあり方がよくわかります。また、子どもと直接関わる場面では、PTAのような（保護者の）組織がとても充実していて、村議会の役割さえ果していることに着目し、助言して協力することで、教育にとどまらず、地方行政にも市民が関わっていく環境をつくったり、キリスト教会をパートナーに選ぶなど、ユニセフが自由自在に活動を展開していく様子が報告されました。最後に、「何のための開発援助なのか?（なぜ援助するのか）」とまとめられましたが、様々な答えの一番終わりに「子どもがかわいいから」と短く、パワーポイントの画面に載せられていたのが、強く印象に残りました。

翌日の日本ユニセフ協会からの報告「ユニセフの中期戦略計画」では、今後10年間の開発目標（8分野：貧困の半減・男女格差をなくす・感染症予防など）にあわせ、2002～5年までの中期計画について報告がありました。その中で、3つの基本方針、子どものライフサイクルに合わせた総合的活動や、数値目標の設定・調査による実態把握

などがあげられました。以前の数値目標では目立たなかったHIV / エイズの問題が5つの優先活動のひとつにあげられ、問題の拡大化を感じました。

2日間の研修では、初めて出会う、各地でユニセフ活動をしておられる方々との交流も新鮮で、二つの報告とともに、今後の活動について新しい課題を得る、よい機会になりました。（内田智子）

他団体主催のイベントにも参加しました



7月7日～13日の市民平和行進にあわせ、コープこうべ各地区で開催された「平和のつどい」。ユニセフのカードやグッズなどを紹介、販売しました。

また、8月9日には姫路文化センターでおこなわれた「ヒューマンフェスタ2003 inなかがはりま」へも参加。ユニセフが進めている「子どもの人権」とも関係の深いこのイベント、だれもがもっている人権について考える機会となりました。



これまでに開催した学習会

訪問日	訪問先	対象	人数
6月14～16日	コープこうべグループ連絡会	コープ組合員	215
6月28日	生活文化センター虹つ子絵画教室	小学生	20
7月7日	コープこうべ1地区平和のつどい	コープ組合員	100
7月7日	コープ夢前コープ委員会	コープ委員	15
7月11日	鈴蘭台高等学校北区7校合同	生徒会メンバー	30
7月11日	コープ稲美平和のつどい	コープ組合員	40
7月12日	コープこうべ4地区平和のつどい	コープ組合員	200
7月13日	コープ姫路田寺平和のつどい	コープ組合員	28
7月13日	コープこうべ6地区平和のつどい	コープ組合員	100
7月23日	コープこうべ組合員活動理事	コープ組合員	10
8月8日	兵教組揖龍支部青年部	中学校教職員	25
8月22日	Kメゾン伊丹	寿会	80
9月5日	津名町立塩田小学校	小学5・6年生	59
9月8日	コープ丹波コープ委員会	コープ委員	20
9月10日	神戸市立神港高等学校	高校3年生	300

写真展「生きる生きる」を開催しました
8/11～30



*寄せ書きより

いつもフラフラしてばかりで、これといって何もできず夏が終わろうとしている自分。あたりまえのように、ぼーっとできる自分が、とてもぜいたくなのだと少し実感しました。今、私が向き合おうとしている現実、とてもぜいたくなことばかりな気もしてきました。生きるコトに精いっぱい どんなに尊いことでしょう。ちょっと自分がハズカシイ... (16才)

4名のカメラマンによる懸命に生きる子どもたちの写真。たくさんの方にご覧いただきました。最終日に三重県から来られた方、文化祭でみんなに伝えたいと書きとめていた大阪の高校生。また、ご覧いただいた方からたくさんの感想もいただきました。

子どもたちの笑顔から、そしてその生きている様から、あなたは何を感じられましたか。

私がもらったもの

8月に開催した「生きる生きる」写真展の準備をさせていただきました。パネルの貼り付け等、一つの写真をそろえていながら、様々な国の様々な子どもたちの表情を見ることができました。

そんな中、発展途上国の人たちは歯が真っ白で発展している場所に行くにつれて、虫歯になって人口が増えて増えている事実を知りました。私たちにとって、歯医者や医者は必要不可欠な存在です。しかし彼らの国では、それは経済的な理由だけでなく必要のないものです。自分自身で生きていく力があるのです。

私はユニセフを通して、少しずつでも彼らの役に立てるよう、ボランティアをしているつもりですが、今回の写真展を通して反対に、私が彼らからたくさんのエネルギーをもったような気がします。

「生きていること」を考え直すよい機会になったと思います。(中峠佐和子)

教職員対象の「ユニセフ学習会」を開催



8月1日、尼崎市の小学校の先生(国際理解教育)21名をお迎えし、ユニセフの学習会を開催しました。今回のこの学習会は、兵庫県支部のボランティア学習チームとしては初めてのものでした。事前の準備から当日の会場設営、進行とどきどきしながら学習会は始まりました。まず、ユニセフの使命や支援活動の内容について説明を行ない



ました。先生方に水ガメをもっていただき重さ当てクイズをしたり、実際に教室で実施できるワークショップ「逃げなくてはなりません」にも取り組みました。先生方がそれぞれの学校で取られる1つのヒントになれば、そして児童が自分のこととしてとらえ「自分ができることはなんだろう」という気づきにつながれば幸いです。

「惨劇越えて」西アフリカ・シエラレオネからの報告



- 日時 11月29日(土)13:00～14:30
- 会場 コープこうべ生活文化センター4階第2会議室
- 講師 一色昭宏氏(毎日新聞・社会部記者)
- 内容 91年以内の内戦後、復興の道を歩み始めたシエラレオネ。多くの内戦の惨劇を乗り越えて「今」を懸命に生きている子どもたちの様子を中心に報告。(スライド使用)
- 参加費 無料

「イラク児童画展」

【内容】イラク北部・スレーマニアに住む子どもたちの絵50点を展示します。過酷な状況の中で暮らす子どもたちの絵は、色彩にあふれ、故郷を愛する気持や、将来への夢、そして願いを、豊かに伝えています。

- 日時 12月10日(水)～15日(月) 10:00～17:00
 - 会場 コープこうべ生活文化センター1階展示室
 - 参加費 無料
- (今、私たちは子どもたちの願いを真摯に受け止め、世界が協力して平和と復興に取り組んでいかなくては、と思います。ぜひ、ご覧下さい。)

ユニセフ Hand in Hand 『ハンド・イン・ハンド』に参加しませんか。



ユニセフ(国際連合児童基金)では、毎年12月23日を『ハンド・イン・ハンド』(街頭募金活動)の日とし、広くみなさんに募金のお願いをしています。当日ボランティアとしてご協力いただける方を募集いたします。趣旨をご理解いただき、『ハンド・イン・ハンド』に参加してみようと思われる方、どうぞお気軽にお問い合わせください。

- 日時 12月23日(祝・火) 午前11時～午後2時(予定)
 - 場所 三宮、元町、西宮北口ほか
 - テーマ 「女の子も学校へ!」
- すべての子どもたちが初等教育を受けられるよう、より多くの方へ呼びかけます。当日は現地集合、解散になります。詳細につきましては、お申込みいただいた方に後日お知らせいたします。参加ご希望の方はご連絡ください。



はたっこ太鼓
チャリティコンサート

- 日時 12月21日(日) 開場16:00 開演16:30
 - 会場 朝日ホール(神戸元町大丸東側)
 - チケット代 一般1,500円 学生500円 会員1,200円 (当日300円増)
- お問い合わせ、お申し込み はたっこ太鼓直通電話 090-9885-6545(仲まで)

お申込み、お問い合わせは 兵庫県支部まで TEL 078-435-1605 FAX 078-451-9830